

このニュースはFAXとメールで送信しています。地域民報への転載、各支部への配布にご活用下さい。

さっぽろ

# 市議団ニュース

2014年3月12日

No.99

日本共産党市議団事務局発行  
電話 211-3221 FAX218-5124

## 《すべての避難所に備蓄物資を》 伊藤りち子議員が質問

**伊藤りち子議員**は、7日の予算特別委員会で、避難所備蓄物資について質問しました。

「札幌市避難場所基本計画」（2013年3月策定）は、大災害などで住民が避難する場所として“基幹避難所（小中学校など310カ所）”と“地域避難所（寺・町内会館など310カ所）”の2つに区分しています。「すべて避難所に備蓄物資を配備すべき」という日本共産党の主張が実り、備蓄物資はすべての基幹避難所に配備されることになりました。しかし、地域避難所への配備は計画されていません。

**伊藤議員**は「厳冬期に大災害が発生して、高齢者や障がい者、大けがをした人などが最大2キロ離れた基幹避難所には行けないことがある。近くの地域避難所に備蓄物資がないために凍死してしまうことは、絶対にあってはならない」「地域避難所から基幹避難所まで、物資を届けるというが、真冬のマイナス15度を超えるような猛吹雪の中、誰が物資を歩いて運ぶのか」とただしました。

**小笠原危機管理対策部長**は、「避難場所基本計画は、様々な立場の方から検討されたもの。まずはこれに則って、基幹避難所への備蓄配備を進めていきたい」、「万が一孤立する地域ができた時は、自衛隊の出動をお願いします」と答え、地域避難所への備蓄物資の配備については、答えられませんでした。

**伊藤議員**は、「昨年3月に道東で発生した暴風雪では、9人もの尊い命が失われた。猛吹雪で周りが見えなくなったら1メートル先までも進めないほど危険で、命にかかわる。歩いて備蓄物資を届けられない事態も起こる」と、地域避難所への備蓄物資の配備を強く求めました。